

中国市場における黒鉛電極近況

(2020年12月)

12月上旬、石油コークスとニードルコークスの価格は小幅に上昇しているが、黒鉛電極市場は落ち着いている様子。今年9月から、黒鉛電極が1,000～1,500元/トン(約1.6～2.4万円/トン、1元=16円で換算)と値上げした。前半に大幅値上げしたメーカーは年末に電炉鋼の需要が弱くなり、黒鉛電極の価格は緩やかに値上げしている。

輸出面では、近日中国国内電極の見積価格が小幅に値上げしたため、海外から価格の問い合わせが増加し、12月と1月の輸出量が良い傾向になると推測されている。山西省にある大型電極メーカーの情報によると、年末までの計算で今年度の月輸出量は平均3,000トン程度という。一部の仲介業者によれば、最近ではメキシコ、トルコなどの出荷量も上昇しているとのこと。

11月末、市場ではニードルコークス含有量30%のUHP450mmの主流価格は1.4～1.45万円/トン(約22.4～23.2万円/トン)、UHP600mmは1.7～1.85万円/トン(約27.2～29.6万円/トン)、前月比1,000元/トン(約1.6万円/トン)値上げ、UHP700mmは2.2～2.4元/トン(約35.2～38.4万円/トン)で維持している。

原材料面では、撫順石化の石油コークス見積価格は2,800元/トン(約4.5万円/トン)、低硫黄仮焼コークスの見積価格は3,800～4,000元/トン(約6.1～6.4万円/トン)、市場取引は一般的である。

ニードルコークスの市場は安定しており、中国国内石炭系、石油系製品の市場主流見積価格は6,000～7,000元/トン(約9.6～11.2万円/トン)である。

鋼鉄メーカー：鋼の価格は一旦上昇したあと降下し、変動幅は50元/トンであった。市場全体の取引は弱いですが、前期に市場在庫が順調に減少したためメーカーは続けて在庫を減らそうとしている。価格は短期間内に小幅に変動すると予測される。

情報源：ICCよりCMI編集作成